

〈授業改善推進プラン 令和6年度第1学年 国語科〉

<p><b>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題</b></p> <p>○「正しく書く」「正しく読む」「伝わる声で話す」「目を見て聞く」という基礎的、基本的な力を確実に身に付けさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>鉛筆の持ち方、字を書く時の姿勢、書き順など丁寧に最後まで粘り強く取り組む学び方を習慣化させ、学びの方の土台を形成する。</li> <li>言葉の意味や使い方を知り、言葉をまとまりとして捉え、音読する力や表現する力を伸ばす。</li> <li>促音、拗音、助詞「は」「を」「へ」を正しく活用する知識、技能を身に付け、正しい文章を書ける力を付ける。</li> </ul>	
<p><b>2. 課題改善に向けた取組状況</b></p> <p>(1) 令和4年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>記載なし</li> </ul> <p>(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等</p> <p><b>【基礎基本が必要な児童】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>適宜、鉛筆の持ち方、姿勢、書き順、話し方、聞き方、言葉の使い方等、学習の基礎を習慣化させる。</li> <li>読み聞かせの読書活動を設け、言葉に興味をもたせ、語彙を増やしていく。</li> <li>毎日、音読を家庭学習に取り入れて音読指導を習慣化し、言葉のまとまりとして捉えられるように、単語を○で囲ったり、線を引いたりして言葉として読める力を付ける。</li> <li>ペア学習を多く設け、話し方聞き方の型を掲示し、自分の言葉で話す練習を繰り返す。</li> <li>いろいろな文の型を提示し、書く経験を多く設け、書くことに慣れさせる。</li> </ul> <p><b>【活用が必要な児童】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>読書活動を設け、一人読みができる習慣を付ける。語句のまとまりや関係について興味をもたせ、身近なこと以外にも生活の中で活用できる語彙を増やしていく。</li> <li>毎日、音読を家庭学習に取り入れて、音読カードを活用した音読指導を習慣化し、文章のまとまりを捉え、正しい口形、発声、間の取り方を身に付けさせる。</li> <li>グループ学習、全体での発表の場を多く設け、正しく言語を使い、自分の言葉で表現する力や聞く力を育む。</li> <li>ミニ日記や学習の振り返り等、書く経験を多く設け、自分の思いや考えを書いて表現する力を付ける。</li> </ul>	
<p><b>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</b></p> <p>＜方策＞</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>鉛筆の持ち方、姿勢、話し方、聞き方の掲示や語彙を増やすための文字に関わる学習環境を意図的に整える。</li> <li>学習の導入やスキルタイムを使い、言葉の適切な使い方や文章の書き方、促音、拗音、助詞の定着を図る。</li> </ol>	<p>＜検証方法＞</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>学習の始まりでの毎時間の声掛け、ペアでの確認、をし、徐々に声掛けや確認の回数を徐々に減らす。8割が習慣化したのが見られる場合、声掛け、確認の回数調整をしていく。</li> <li>週1回の日記や木曜日のスキルタイでのミニテストを細かめに設定し、書く力や語彙の定着を確認する。振り返りを文章で8割の児童が表現できるように、毎単元、書いてまとめさせる。</li> </ol>
<p><b>4. 検証結果(成果と課題) 【年度末に記入する】</b></p> <p>＜成果＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>基本的な学習への姿勢は身に付いた。</li> <li>学習の導入時にしりとりタイムを設定したり、新出漢字の学習時には、関連する語彙に触れさせたりする時間を多く設け、言葉を読む、書く力がついた。</li> <li>振り返りを具体的に書く練習を繰り返し行い、文章への抵抗はなく、書くことができるようになった。</li> </ul> <p>＜課題＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>促音、拗音、助詞の使い方、見直しの仕方は繰り返し練習が必要である。</li> <li>具体的に自分の気持ちを言葉で表現する力が弱い。</li> </ul>	<p><b>5. 令和7年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項【年度末に記入する】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「いつ、どこで、だれが、なにを、どうした」+自分の思ったこと、考えたことを具体的に文章で書く練習が必要である。</li> <li>促音、拗音、助詞などの誤字、脱字が見られる。引き続き練習し、習熟をさせる。 特に、小さい「つ」「～わ」→「～は」</li> <li>文章を書いた後に見直す習慣づけを継続する。</li> <li>言葉の意味を捉えて書く練習をし、語彙を増やす。</li> </ul>
<p><b>6. 令和7年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿【年度末に記入する】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>正しい言葉を使い、自分の考えや思いを自分の言葉で表現できる児童</li> </ul>	

【別紙2】

〈授業改善推進プラン 令和6年度第1学年 算数科〉

<p>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・10までの数の合成や分解の理解の習熟、定着をさせる。</li> <li>・文章問題の読み取り、数量の関係に着目して立式する力を付ける。</li> <li>・書いたら、見直しをする習慣化を図る。</li> </ul>	
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和4年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・記載なし</li> </ul> <p>(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等</p> <p><b>【基礎基本が必要な児童】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ブロックやおはじきを使い、具体的操作を取り入れ、数の合成、分解を繰り返し行い、数の感覚を養う。</li> <li>・文章問題の中で、「わかっていること」「聞いていること」に赤・青線を引き、問題文を整理する。</li> </ul> <p><b>【活用が必要な児童】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・問題文を図で表し、問題場面を具体的にイメージさせる活動を意図的に多く取り入れ、思考の過程を表現できる力を付ける。</li> <li>・文章問題の中で「わかっていること」「聞いていること」算数的言葉のキーワードに着目する習慣を付けさせ、問題文に取り組む力を付ける。</li> </ul>	
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <p>＜方策＞</p> <p>①数の概念を定着させる。計算の習熟ができるように反復学習を行い、基礎的な定着を図る。</p> <p>②思考の過程が分かるように考え方や計算の仕方を半具体物や図、言葉を使ってノートにまとめて表現する場を多く設ける。</p>	<p>＜検証方法＞</p> <p>①学習の始めに、1分間チャレンジタイムを設定し、数の合成、分解やたし算、ひき算など問題カードに取り組み記録をしていく。単元終わりまでには、正答率8割を目指す。</p> <p>②自分の考えを書く練習を繰り返し行い、定着を図る。ペア学習を取り入れ、図や言葉で立式の根拠を示して説明をさせる。毎授業、ノートを確認し、習熟度を検証する。</p>
<p>4. 検証結果(成果と課題) <b>【年度末に記入する】</b></p> <p>＜成果＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・毎時間の1分間チャレンジを繰り返し、10の分解、合成を理解し、次単元への学習にも活かすことができた。</li> <li>・図から図と言葉と考え方をまとめる練習を計画的に取り組み、自分の考えを表現し、まとめる習慣がついた。</li> </ul> <p>＜課題＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・文章問題を読み取る時に、問題文に出てきた数字の順番に立式することがある。文章を読み取る練習が必要である。</li> </ul>	<p>5. 令和7年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項 <b>【年度末に記入する】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・指を使用しながら計算する児童もいる。継続して計算に慣れさせる。</li> <li>・文章問題を読み取る力をつける。「わかっていること」「聞いていること」は、引き続き線を引いて確認をする。また、足し算なのか引き算なのかキーワードになる言葉を見付けられるようにする。</li> <li>・見直しの仕方を確認し、習慣づけを継続する。</li> </ul>
<p>6. 令和7年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿 <b>【年度末に記入する】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・場面を想像しながら文章を最後まで読み取り、ねばり強く考えることができる児童</li> </ul>	

〈授業改善推進プラン 令和6年度第1学年 生活科〉

<p>1. 『『わかる』から『できる』を体感する授業』を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生活経験の不足、日常生活に必要な基本的な技術が十分でない児童が見られる。</li> <li>・観察する時の着眼点、観察の仕方がわからず、気付いたことを絵や文章で表現する力に個人差がある。</li> </ul>	
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和4年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・記載なし</li> </ul> <p>(2) 今年度実践している『『わかる』から『できる』を体感する授業』を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・気付いたことのキーワードとなる語彙を全体で確認してから、自分の言葉で具体的にまとめていくようにする。</li> <li>・観察や活動の視点を明確に示し、新たな気付きにつながるようにする。</li> <li>・観察カードなどから友達の考えやまとめ方を視覚的に捉えられるように常時掲示し、表現の方法の幅を広げさせる。</li> <li>・日常生活に必要な基本的な技能が身に付くように、計画的に練習する機会を設け、技能の習得をする。</li> </ul>	
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <p>&lt;方策&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 内容や時間の見直しをもちながら、児童の生活や体験に基づいた具体的な活動を行う。</li> <li>② 変化した様子を見とる着眼点について、繰り返し指導し、文章や絵での表現する方法の手法を提示しながら指導する。</li> </ol>	<p>&lt;検証方法&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 「手や体を使う活動」「様々な道具を使う活動」をたくさん取り入れ、生活上必要な技能を身に付けさせる。できたかなタイムを設定し確認する。9割の定着を目指す。</li> <li>② 観察の5つのポイントを掲示する。「見付ける、比べる、例える」など具体的な視点を与えて観察カードに取り組みさせる。交流できる場を設け、新たな気付きへ繋いでいけるようにする。8割の児童が5つのポイントの習得と活用できるように目指す。</li> </ol>
<p>4. 検証結果(成果と課題) <b>【年度末に記入する】</b></p> <p>&lt;成果&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「見る」「触る」「聞く」「感じる」「考える」を多く経験し、考える力をつけた。</li> <li>・1つの植物を継続して観察することで、観察するポイントを示し、変化を絵や文で表現することができるようになった。</li> </ul> <p>&lt;課題&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・観察したことを言葉で表現することが難しい児童がいる。表現の仕方や観察のポイントをおさえた練習を継続してする必要がある。</li> </ul>	<p>5. 令和7年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項 <b>【年度末に記入する】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・観察する視点や変化した様子を見とる着眼点について、繰り返し指導し、より具体的に文章や絵で表現する力をつける。</li> <li>・観察の記録としてタブレット活用も効果的である。</li> </ul>
<p>6. 令和7年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿 <b>【年度末に記入する】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の周りの自然や事象に興味を示し、比較して観察ができたり、違いに気付いたりする児童</li> </ul>	

〈授業改善推進プラン 令和6年度第1学年 音楽科〉

<p>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・個別の活動や一斉指導だけでは「わかった」「できた」という実感が少なく、学習意欲が向上しない傾向がある。</li> <li>・音楽科の学習では、児童の音楽活動と離れた個別の知識の習得や、技能の機械的な訓練に偏ってしまう傾向がある。音楽活動と関わらせながら知識や技能を習得することで「わかった」と実感したり、児童が主体的に学び、思考・判断・表現することで「できた」と感じたりすることができるようにする必要がある。</li> <li>・拍感覚の習得速度やリズム打ちの技能に個人間で差が見られるため、丁寧な個別指導が必要である。</li> <li>・就学前の音楽体験に差があり、基礎的な歌唱に必要な音程感覚の習得が十分でない児童が見られる。</li> </ul>	
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和4年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・記載なし</li> </ul> <p>(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業を実現するための工夫等</p> <p><b>【基礎基本が必要な児童】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・個別に表現の技能を見取る機会を適宜設け、学習内容の達成状況を把握するとともに、その場でフィードバックを行い、児童が達成度や学びの方向を理解できるようにする。</li> <li>・旋律のフレーズを取り出して範唱と模唱を繰り返し、歌唱の技能について丁寧に指導する。</li> </ul> <p><b>【活用が必要な児童】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・表現活動の試行回数を増やし、曲想を感じ取って表現を工夫できるようにする。</li> <li>・わらべ歌に取り組んだり、拍にのって体を揺らしたりするなど、身体表現の活動を多く取り入れ、拍感覚の育成や意欲の向上を図る。</li> </ul>	
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <p>&lt;方策&gt;</p> <p>①拍感覚と音高感覚の定着を図る。範唱と模唱を繰り返す活動を増やし、演奏聴取をその後の指導に生かす。</p> <p>②絶え間ない表現活動や身体表現などを通して表現の試行の質と量を確保し、表現に対する思いをもてるようにする。</p>	<p>&lt;検証方法&gt;</p> <p>①個別または少人数の演奏聴取によって児童の歌唱技能の達成度や課題を細かく記録し、指導を検証する。5割の児童が適切なリズムと音程で歌えることを目指す。</p> <p>②児童の発言を記録し変容を明確にし、指導を検証する。5割の児童が曲想を感じ取って表現を工夫できるようにする。</p>
<p>4. 検証結果(成果と課題) <b>【年度末に記入する】</b></p> <p>&lt;成果&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・模範歌唱や鍵盤楽器の音に合わせて、正しい拍や音高で歌う力が約7割の児童に身に付いた。</li> <li>・「楽しい雰囲気」を想像しながら、明るい声で歌う力が身に付いた。</li> </ul> <p>&lt;課題&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・友達の音や声を聴いて、お互いに音を合わせる技能に課題がある。</li> </ul>	<p>5. 令和7年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項 <b>【年度末に記入する】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新出の曲を歌う際は、2小節ごとに模範演奏を示しながら歌い、音高やリズムを確かめながら覚えることができるようにする。</li> <li>・音価の長い音や裏拍を含むリズムを捉えるのに時間がかかる傾向がある。手を叩いたり足踏みをしたりして、拍を感じながら歌うことができるよう指導する。</li> </ul>
<p>6. 令和7年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿 <b>【年度末に記入する】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・音楽活動を楽しみながら、表現への思いや意図をもつことのできる児童。</li> </ul>	

〈授業改善推進プラン 令和6年度第1学年 図画工作科〉

<p>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・図画工作科の特に多くの道具や材料を使用する。1年生は初めて学校で使用する道具も多いため、技能に重きをおいた単元を適宜行い、1つ1つの道具や材料の扱い方を丁寧に学び、基礎的な技能の力を高める。</li> <li>・自分で考えたり、感じたりして豊かに表現や工夫する力をさらに高める。</li> <li>・様々な発想の方法をできるように発想する力をさらに高める。</li> </ul>			
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和4年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・記載なし</li> </ul> <p>(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的な材料や道具などの使い方を掲示や ICT を活用して確認するとともに、様々な学習場面で何度も活用できるようにする。</li> <li>・表したいものを見付けるための様々なアプローチを経験できるようにする。</li> </ul>			
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p>＜方策＞</p> <p>①掲示や ICT 機器を活用しての材料や道具の使い方を説明するとともに、様々な道具や材料に何度も触れる機会を増やす。</p> <p>②表したいものを見付けるための様々なアプローチを経験できるように導入の中でねらいを明確にして伝えることにより意識させる。</p> </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p>＜検証方法＞</p> <p>①児童や作品の観察。全児童が材料や道具を正しく扱え、どんな小さな工夫でも良いので自分なりの工夫をできるようにする。 1学期の間にはさみ、のり、ねんどなどの基本的な道具や材料を正しく扱えるように指導する。</p> <p>②児童や作品の観察。毎回の授業でねらいに沿った活動が行われている。</p> </td> </tr> </table>		<p>＜方策＞</p> <p>①掲示や ICT 機器を活用しての材料や道具の使い方を説明するとともに、様々な道具や材料に何度も触れる機会を増やす。</p> <p>②表したいものを見付けるための様々なアプローチを経験できるように導入の中でねらいを明確にして伝えることにより意識させる。</p>	<p>＜検証方法＞</p> <p>①児童や作品の観察。全児童が材料や道具を正しく扱え、どんな小さな工夫でも良いので自分なりの工夫をできるようにする。 1学期の間にはさみ、のり、ねんどなどの基本的な道具や材料を正しく扱えるように指導する。</p> <p>②児童や作品の観察。毎回の授業でねらいに沿った活動が行われている。</p>
<p>＜方策＞</p> <p>①掲示や ICT 機器を活用しての材料や道具の使い方を説明するとともに、様々な道具や材料に何度も触れる機会を増やす。</p> <p>②表したいものを見付けるための様々なアプローチを経験できるように導入の中でねらいを明確にして伝えることにより意識させる。</p>	<p>＜検証方法＞</p> <p>①児童や作品の観察。全児童が材料や道具を正しく扱え、どんな小さな工夫でも良いので自分なりの工夫をできるようにする。 1学期の間にはさみ、のり、ねんどなどの基本的な道具や材料を正しく扱えるように指導する。</p> <p>②児童や作品の観察。毎回の授業でねらいに沿った活動が行われている。</p>		
<p>4. 検証結果(成果と課題) <b>【年度末に記入する】</b></p> <p>＜成果＞</p> <p>①掲示や ICT を活用したことにより児童の理解がスムーズになった。また、掲示があることによって説明を何度も見返すことができ、理解が深まった。</p> <p>②導入時でねらいを明確化し、児童の意欲づけに繋がった。</p> <p>＜課題＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ICTの接続が安定しないときがある。</li> <li>・ねらいにそった活動が難しい児童がいる。伝え方や児童の意欲づけに工夫が必要か。</li> </ul>	<p>5. 令和7年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項<b>【年度末に記入する】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・道具の扱いに課題がある児童がいる。のりでの接着やハサミで紐を切る際の力加減など、再度復習が必要。</li> </ul>		
<p>6. 令和7年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿<b>【年度末に記入する】</b></p> <p>様々な材料や技法に興味を持ち、活動を楽しみ、友達の作品の良さを認めることのできる児童。</p>			

〈授業改善推進プラン 令和6年度第1学年 体育科〉

<p><b>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>基本的な動きや遊びの経験に個人差があり、運動遊びやゲームなどを楽しく行うために必要な技能や体の使い方を身に付ける。</li> <li>教え合う場、互いの良い所をまねっこしながら動きを習得できる学習の場を意図的に設ける。</li> </ul>	
<p><b>2. 課題改善に向けた取組状況</b></p> <p>(1) 令和4年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>記載なし</li> </ul> <p>(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>児童の発達段階に応じて、様々な動きを繰り返し経験させる。また、その活動を繰り返す中で、試行錯誤したり、協同的に解決できるよう、運動の特性に合わせて、めあてやルールを工夫し、運動の楽しさを十分に味わえるようにする。</li> <li>基本の運動を多く体験させ、体の動かし方を習得し、幅広い運動経験を積み重ねられるようにする。</li> <li>児童同士教え合う場や発表する場を設け、児童が達成感を味わえるように学習計画を立てる。</li> </ul>	
<p><b>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</b></p> <p>＜方策＞</p> <p>①動きに応じた体の使い方を準備運動に取り入れ、基本的な動きを身に付けさせる。 学習カードを使い、身に付ける技能を明確にする。</p> <p>②友達同士、よい動きを見付けられるなど、互いに認め合える学習習慣を付け、運動の幅を広げさせる。</p>	<p>＜検証方法＞</p> <p>①ポイントの色分けをしたり、ホワイトボードを活用したりするなど、児童が視覚的に理解しやすいようにする。スモールステップによる学習の場を設けて8割の児童に達成感をもたせる。</p> <p>②ペア、グループでの話し合い活動や教え合う場を、適切に設定する。また、毎学習の最後に振り返りの場を設け、学びを整理させる。</p>
<p><b>4. 検証結果(成果と課題) 【年度末に記入する】</b></p> <p>＜成果＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>準備運動で、太鼓をつかったリズム運動などいろいろな動きを多く入れ、体の動かし方を身に付けさせた。</li> <li>グループ活動を多く取り入れ、教え合う場を通して、互いの良い所をまねっこしながら動きを習得できた。また、学習カードの振り返りから友達の良い点を見付けることができたようになった。</li> <li>スモールステップの学習により、達成感を味わいながら学習できた。</li> </ul> <p>＜課題＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>よりよくなるような具体的なアドバイスを表現できるよう見本を示しながら練習する必要がある。</li> </ul>	<p><b>5. 令和7年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項【年度末に記入する】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>基本的な動きは身に付いているが、ジャンプや短縄など一定のリズムや間隔を取るの難しい児童が多い。また、体の動かし方が分かっていないため、鉄棒などで布団干しのような体を前に倒すことが難しい児童がいる。体のどの部分をどう動かすのか具体的に手本を示しながら繰り返し練習をし、技をより広げられるとよい。</li> </ul>
<p><b>6. 令和7年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿【年度末に記入する】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>体を動かすことを楽しみながら、友達の良い所を真似したり、教え合ったりすることができる児童</li> </ul>	

〈授業改善推進プラン 令和6年度第1学年 道徳科〉

<p>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・登場人物の気持ちを想像したり、物事の事象について考えたりする力を高める。</li> <li>・自分の生活に結び付けて考えたり、今後に生かそうとしたりする力を高める。</li> </ul>	
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和4年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・記載なし</li> </ul> <p>(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校生活や日常の振り返りをさせたり、場面を想像しやすいように具体的なものを提示したりする。</li> <li>・場面の挿絵を提示したり、役割演技や動作化をしたりして考えをもたせやすくする。</li> <li>・道徳的価値に関わる事象を児童の実態に即して具体的な事例を挙げて考え、自分の生活とつなげて考えさせる。そして、自己の生き方の課題を考え、実現していこうとする思いや願いを深められるようにする。</li> </ul>	
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <p>&lt;方策&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①考えをもつための時間の確保やペア学習や動作化を取り入れ、自分の気持ちの視覚化をする。</li> <li>②自分の生活に結び付けて考えられる発問を吟味し、児童の実態に合わせて学習を展開する。</li> </ul>	<p>&lt;検証方法&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①ペア学習を適宜入れることで、多様な考えに触れたり、役割演技や動作化を取り入れたり、気持ちを考えやすくしたりする。毎時間、振り返りを行い、自分が考えたことを記述、口頭で表現させる。</li> <li>②具体的な場面を思い起こさせたり、学習後も児童の生活の中で該当する場面を示したり、自分の生活とつなげて考えさせたりして、価値への意識づけを繰り返し行う。</li> </ul>
<p>4. 検証結果(成果と課題) <b>【年度末に記入する】</b></p> <p>&lt;成果&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・役割分担やペア学習を多く取り入れ、自分の気持ちを考える手立てとなった。</li> <li>・ペア学習をすることで、自分の考えに自信をもって発表することができた。</li> <li>・いろいろな考えを聞く機会を多く設けたことで、自分と違う考えに気付き、受け入れる様子が見られた。</li> </ul> <p>&lt;課題&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習後、自分の生活とつなげて考えさせる、価値への意識づけが弱かった。</li> </ul>	<p>5. 令和7年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項 <b>【年度末に記入する】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・具体的な場面を思い起こさせたり、学習後も児童の生活の中で該当する場面を示したり、自分の生活とつなげて考えさせたりして、価値への意識づけを行う。</li> </ul>
<p>6. 令和7年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿 <b>【年度末に記入する】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・相手の気持ちを想像し、自分の生活へとつなげて考え、行動できる児童</li> </ul>	